

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 一般研究

研究代表者: 周建中 (東京成徳大学 人文学部・教授)

研究協力者:

研究題目(和文):

中国「退耕還林・退牧還草」政策実施の効果と問題点について— 黄土高原地域を中心に

研究概要(和文):

発表要旨: 中国の乾燥・半乾燥地域における沙漠化問題の要因の一つとしては、牧畜民だけでなく、広大な都市部と農村地域における羊肉など畜産品への需要量の増大と、市場経済的利益拡大への追求による牧畜業生産への刺激が、沙漠化拡大への要因になっていると考えられる。経済が発展して来た中国には世界1位の外貨準備高を持っている。この資源を生かして、畜産品の先進国から羊肉などを輸入する市場経済的措置を取れば、中国内陸における沙漠化防止と改善のために役立つと考える。

将来的に、沙漠化面積を縮小するには、経済の発展につれて、自然環境が厳しい地域から比較的良い地方への移民、近代的大規模牧場の発達、都市化の発展などの社会・経済の発展による措置・要素による効果への期待ができる。そして、遊牧という伝統文化の維持も自然条件のいい地区での大規模牧場と牧畜観光業の建設によって可能だと思われる。